



UBRJセミナー
南アジア地域に
おける宗教と肉食
国境を越える牛の屠り

2016年
10月21日(金)
16:30~18:00
報告者：宮本万里
(慶應義塾大学・専任講師)

インドでは近年ヒन्दゥー教で神聖視される牛の屠殺や摂取を禁じる法律が改めて導入され、人々の日常における食と生業の選択が宗教のみならず政治的なものとして捉えられつつある。また、ブータンなどの仏教地域では、仏教僧たちが不殺生戒を掲げて家畜の放生を推進するなか、牧畜民は屠畜による現金収入の道を断たれつつある。

本発表では、南アジアの宗教世界における肉食と屠畜の位置付けとその変化について、ブータンおよびインドの事例を中心に描き出すとともに、南アジア全体で生起している家畜の越境とその背景を多面的に検討してみたい。

参加自由・事前登録不要

会場：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 4階 大会議室 (403室)
(〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目)

お問合せ：地田 徹朗 (SRC境界研究ユニット 助教)
TEL 011-706-2388 (SRC事務室 / 平日17時まで)
E-MAIL tetsuroch@slav.hokudai.ac.jp

